

---

# コンビニと戦艦

horito

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

コンビニと戦艦

### 【Nコード】

N0327Z

### 【作者名】

horito

### 【あらすじ】

仮想空間に漂う大きな人工物・・・

現実のコンビニで買う運命の”クジ”

リアルラックと仲間に恵まれた一人の大学生・・・

さてさて、運命はどこへ流れていくのか・・・

1

『魚雷接近!!』

3時方向、二発!』

―副艦長・レーダー担当からの報告―

艦内は緊急警報が鳴り響く。

赤色ランプが視覚的にも深刻な事態を告げている。

「取り舵一杯!

推力スロットル全開、用意!

カウント0でデコイ発射!」

オレが指示がだす。

「推力スロットル全開!」

エンジンの轟音が咆哮の様に唸りだす。

1 3

1 2

「推力スロットル絞れ、慣性航行へ移行!動力オールカット!」

1 1

1 0 (発射)

『デコイ発射成功！』  
―火気管制から報告―

『魚雷接近中！！』  
デコイまで後、四秒！』

「全員対衝撃体勢をとれ！！」

…ドオゴオーン！！

凄まじい爆発音と閃光が艦内に響き渡るのと同時に、衝撃で船体が激しく揺れる…

…

…オオーン …… オン

残響が残る艦橋を見渡し、被害状況を確認する。

視界の右上には現在搭乗している艦艇全体が判りやすく表示されている。

船尾に黄色い点滅  
エンジン損傷（小）  
船尾発射口破損（小）  
艦載機離着陸不能

「艦載機は出せなくなりましたが、損傷軽微！まだやれます！」  
―副艦長の報告―

「敵の情報をサブ画面へ表示。第一戦速を維持したまま、時計回りで距離を取る。」

後部砲筒発射用意、前部1・2番砲筒は左側面に3番は閃光弾を装填、芯管を二秒後にセット右側射角最大で用意」

「了解、用意します」

…

「用意完了！」

「…早いな」

「はい、いつもの流れですから」

と少し誇らしく答える。

「……なるほどな、自分の癖には気付かないものだな…、自分の事は相手や周りの方が良く観てる…敵にも予測されたわけか…それで、この状況になったのか…」

「あつ別にそうゆうつもりで言ったわけじゃ…」

「いやいいんだ、向こうが予測しているとわかるなら、違うことを考えればいいんだ」

いつもなら、追い付かれたところで（無論わざと）、減速反転しながら後部砲筒からの砲撃、続いて相手の回避方向を見ながら前部1・2番から砲撃、同時に3番から閃光弾で視覚を奪い、反転後に船首発射口から魚雷発射。

操艦技術の優れた反転速度と優秀な火器管制があればこそ、最大の攻撃だ。

魚雷で決着が着かなければ、さらに船の側面を向け全砲筒が同時に轟音をあげる。

俺達は、この戦法で幾度も逆転勝利してきた。

敵艦は同じ距離を保ったまま追従している。

敵艦は装甲重視の重戦艦級だ。

その姿は、船を二隻並べ中央後方気味に艦橋がある。大きなイカダみたいだ。

前部に魚雷発射筒2門。中央に大口径の超長距離砲が1門鎮座し、左右には大型戦艦砲が計8門。艦橋の周りには、二連の対空パルス砲がグルリと装備されてりる。

重量は相当なものだが、戦艦2隻分のエンジンが十分な推進力を出している。

本気を出せば、すでに、艦中央に鎮座している超長距離砲が発射できる距離まで近づいてくることだろう・・・。

## 1（後書き）

思いついたら投稿します  
よろしく願います

## 設定・背景（前書き）

設定と背景です。

順次思いついたら更新したりします。

## 設定・背景

ゲームは当初の様相を変えコンビニの代理戦争となっていた。

1ヶ月の間にどれだけ勢力が延ばせるかで状況が変わり、半年の間に総合的な勝敗が決まる。

現在は、第三次大戦・中1期となっている。中1期とは、三ヶ月目ということ。

現実の東京二十三区内のコンビニが精密にマップピングされ店の場所が要塞となり周りに護衛衛星や防衛拠点を取り巻いている。

コンビニ同士の間所が近いところは激戦区となり高レベルのプレイヤーなどが多く参戦している。

各コンビニは、ゲームの補助アイテムや特典を販売している商品にアイテムを付属している。

ゲーム内で受け取るにはコードキーを入力すればいいだけ。

ただし、購入するときに携帯に所属を表すQRコードを表示してチェックする必要がある。

コードを使えるのは一週間に7回のみと決まっている。

大概は簡単な修復キットなどだが、レアなアイテムやボーナスもたまに入っていると噂が流れている。真相は不明。

1ヶ月の状況で翌月のアイテム添付率（アイテムのグレード等）が変わってくる。

要塞の支配領域が%で表情され、視覚的にもはっきりわかるようになっていく。

半年で支配領域がリセットされる。

地方のコンビニは都内のコンビニと連携していて2ヶ月毎にランダムで連携する場所が変わる。

プレイヤー達はなるべく近所のコンビニの支配領域を拡大するために戦場に赴くことになる。

コンビニ各社とメーカーが規定を設け、法律上でも問題がないか協議するため専属の弁護士数人を共同で雇っていた。

厳しく取締りが行われている為、不正は起こらない、システムの穴や違法ツールは細かいアップデートで一週間もしない内に対処される。

BOTと呼ばれる業者等も入り込めない。

この辺りのこともしっかりしているので、プレイヤー達からは信頼を得ていた。

なぜコンビニ各社がこれほどまでに力を入れているかというと……

始まりは、あるコンビニの重役の子供が、このゲームの前身バージヨンのプレイヤーだった。

あまりに子供がゲームにはまっているため自分で調べて試しにやってみると、もともとゲーム世代だった親も見事にはまった……。

2ヶ月の間、時間を見つけては仮想世界へ行っていた。

どうしても修理アイテムが足りない……。このゲームは有料アイテム等はバランスを崩すということで設定されていなかった。

何かできないものかと考えた末に、自分の仕事を思い出した。

社内でゲーム会社との提携を企画した。

商品にアイテムコードを付けることを提案した。

企画は成功し、ゲームにはまる廃人クラスがこぞってそのコンビニから買うため、売り切れ続出の脅威的な売上を記録した。

この企画をした重役はゲーム内でも自社ブランドの名前を付けたアイテムを生産販売するギルドを立ち上げた。

土台を築く後は、社内の成績が上がらないゲーム好きの社員をゲーム内で作業させるようにした。

その中の一人がゲーム内で才能を開花させ、あることがギルドが要塞をもつまでに成長させていた。

もちろん要塞はそのコンビニのイメージカラーを施し、ギルドマークはコンビニの看板だ。

そのコンビニの商品を定額買うことで”くじ”をひきアイテムを得る。

全国ですでに3万人のプレイヤーがいた事もあり、そのコンビニに客が集中した。

それを見たコンビニ各社がそのゲームに参戦を表明した。

ゲームを運営しているメーカーと各社が3ヶ月にも及ぶ会議を行い、ゲームとしては異例の共同運営体としての別会社を立ち上げた。

大規模なアップデートを発表し、準備期間として2ヶ月の間にプレイヤー達に納得してもらった。

内容はプレイヤーデータ以外を初期化。

名前も変更するか選択できた。

ギルドの初期化。

船やアイテムもゲーム内のお金キャッシュに変換された。

マップデータをコンビニの現在地と合わせて、規模の調整を行った。  
所属するコンビニの選択と携帯のリンク作業。  
新アイテムや新型艦等の実装。

## 設定・背景（後書き）

おかしな設定等は順次気づいたら行います。

ご指摘・ご意見等があれば、どんどん言ってください。  
独断と偏見で修正や方向性を変えていきます。

「よし、一度全速力で距離を取り、超長距離砲撃で一泡吹かせるぞ！」

……えええっ！！

驚きが艦橋内にこだまする。

『出来るんですか艦長……？』

皆を代表して副艦長が切り出した。

この船に乗艦して1ヶ月一緒にやってきた彼らでも、それらしい武装を一度も見たことがなかったから。

火器して管制官すら知らないと言うことは誰も知るはずがない。

超長距離で攻撃する方法は複数あるが、その全てが決戦兵器と呼ばれる物で、準備と費用が馬鹿にならない…。

個人で使うことなどあり得ない。

そんなことは百も承知の俺は、あることを黙っていた…。このクルーなら知られてもいいかなと思いつつ話すことにした。

「実は今まで秘密にしてきたが…」

ゴクリと喉を鳴らす火器管制官。

「この鑑は……武装変形出来る」

『ま……まじ……っすか!!』と声にならない表情で固まるクルーの二人…。

武装変形とは、船の形を変えて船そのものが武装となること。

公式ホームページでは発表されていた。

内容は、

どこかの惑星に古代の技術が詰まった朽ち果てたアイテムが多数存在する。

いくつかのアイテムを揃えて、復活させれば神の一撃を放てるだろう…。

広い世界を探索し、古代の力を手に入れてほしい。

いまだ、獲得情報や週末の大規模中間大戦での利用、情報が掲示板や攻略サイト等に流れていない…。

彼どうやって、レア中のレアな船を獲得したのか……？  
後日仲間に語られることになる…。

「敵艦との距離は？」

『距離5000、有効射程に届いていません。』

敵艦に装備されていた長距離砲”レールガン”の射程距離まで1500。このままの速度でおよそ60秒で射程圏内に入ります』

『こちらの通常射程圏内まで2500か……。艦長の腕でこの艦のシールドなら射程距離まで捉えると思いますが、近づくと向こうも主砲を撃ってきますからね……。』

「あちらさんも、そう思ってるよな」

『はい』

含み笑いの三人…

「魅せよう…古代に失われた神話の槍！すべてを貫く神の一撃を！」

俺は目の前の艦長席のコンソールを素早く操作しパスワードを入力する（さっきのセリフもパスワードの一部）。

武装変化”ゲイボルグ”

神の一撃はあっけなく敵艦を吹き飛ばした…。何も残さずに…。

『……』

「  
…」

長い沈黙と動かない視線……。

エネルギーが無くなったことにより明かりの消えた艦橋……。

各々に整理が付くまでその状況は変わらなかった。

徐々に意識が戻ってくると、母港へと進路を向けた……。

――ゲーム内の掲示板――

四基あるエンジンがそれぞれ船を離れて動き出す。

エンジン四基は十文字の端々に動いて行く……。

まるで本来の姿に戻る様にごく自然に……

枷を外されたエネルギーが可視出来るほど強く濃密に溢れだす。

エネルギーの奔流が船体を覆っていく。

外から見ると十文字？十字架？のような形。

輝く光は、神々しく禍々しく感じられた……。

徐々に威圧感が高まっていくと↓の形へと変わっていく……。

↓の先端に黒い光が生まれる……。

自然と吸い寄せられる視線……目を離すことができない……。

いつの間にか放たれた黒い光の槍は、遠く離れた攻撃できずがな  
い距離にいる一隻の巨大な戦艦を、爆発の光を上げる前に消し去っ  
た……。

俺たちは、何を見たのか？

これを見たやつは、意見をくれ・・・。

この情報は、たまたま近くに居合わせた採掘船からの掲示板への投稿だ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0327z/>

---

コンビニと戦艦

2011年12月1日21時59分発行